

兄弟城新聞

発行者

豊橋市立 福岡小学校 六年

ふりがな ほきい けんすけ

保木井 絢介

吉田城と姫路城が兄弟!?

お城の天才リフォームー「池田輝政」

てるまさ

みなさんは姫路城を知っていますか？姫路城は1996年にユネスコ世界遺産に指定された世界的にも有名な兵庫県にあるお城です。その姫路城と僕が住んでいる豊橋市の吉田城が「兄弟城」と呼ばれているのです！なぜ、そのように呼ばれているのでしょうか。それは二つの城を今の形にした人物が同じだからなのです。それが「池田輝政」です。

姫路城

シラサギが大きく羽を広げて立っているように見えることから「白鷺城」とも呼ばれている。



吉田城鉄櫓



鉄櫓下の輝政時代の石垣

輝政と吉田城

輝政は1590年に秀吉の命令で吉田城に入城しました。その当時の吉田城は石高15万にしては小さくて守りもあまかったのです。石高にふさわしい城になるように堀や石垣などを大改修しました。同時に城下町の整備もしました。鉄櫓（くろがねやぐら）の北側には輝政がつくった当時の石垣が今も残っています。

輝政と姫路城

1600年の関ヶ原の戦いの後、吉田城から52万石の姫路城に移りました。その時の姫路城は秀吉が改修したものでした。輝政は、それを残しつつ豊かな石高をもとに大改修しました。城を内堀と中堀で囲い、城下町を総距離約12kmの外堀で囲い、城と城下町を合体させた「総構え」をつくりました。その他にも、多くの門や狭間を設けたり、連立式天守をつくったりして、防御力の高い巨城を完成させました。

二つの城の石垣

吉田城に今も残る石垣は、当時の最先端技術と言われている「野面積み」です。加工してない大きな石を積み上げ、その間に小さな石を入れてバランスを調整しているものです。姫路城の石垣も同じ野面積みですが、さらに進歩させて「算木積」も使われています。算木積は、力のかかる角の部分に長

方形に削られた石を、長辺と短辺を交互に組み合わせせて積むものです。これにより、より強くて崩れにくく高い石垣をつくることができました。輝政は吉田城で石垣技術を磨き、その技術をさらに進歩させて姫路城の石垣をつくったのです。

編集後記

400年たった今も残るような石垣をつくった輝政はすごいと思いました。吉田城が姫路城をつくるための練習台となっていたのではないかと思うと地元吉田城を誇りに思います。2年前に姫路城に行ったとき、観光客が多かったです。吉田城の歴史や貴重な石垣のことをもっと多くの人に知ってもらって、多くの人が吉田城を訪れてくれるといいなと思いました。

石高（こくだか）とは、土地の生産力を米の収穫量で表したものです。大名の領地や武士の給金、農民の年貢などの基準として使われました。1石は今の価値にすると5万～10万円です。僕は吉田のとき年商75～150億円。姫路のときは年商260億～520億円です。大出世だったんですよ！

どうも輝政です



1594年に家康様の次女督姫と結婚しました♥徳川家と強いつながりができました。

出典：戦国ガイド（鳥取県立美術館所蔵「池田輝政像」）